

WHO-FIC 韓国会議報告について

| | |
|------|---|
| 主催 | WHO, WHO-FIC 韓国協力センター（申請中）共催 |
| 開催期間 | 平成 21 年 10 月 10 日（土）～16 日（金） |
| 会場 | 韓国ソウル市 韓国カトリック大学ソンシンキャンパス国際コンベンションセンター |
| 参加者 | WHO, WHO 協力センター、厚生・統計関係部局、オブザーバー等約 150 名 |

主な議題について

(1) 各種委員会報告

● 諮問委員会（Council）

- 各グループ及び委員会の workplan の見直しを目的としたピア・レビューアを指名（WHO-FIC 全体のピア・レビューアとして、藤田伸輔 ICF 専門委員、教育委員会のピア・レビューアとして日本病院会横堀由喜子氏（大井利夫 ICD 専門委員代理））
- iCAMP の報告
- 伝統医学に関する分類の追加を検討中。
- SnomedCT は、ICD とのリンケージに関してのみ無料で使用可能とする旨 IHTSDO と合意。
- 次回執行小委員会（SEG）WHO-FIC 諮問会議（council）、RSG は来年 4 月に予定。
- 第 2 回 iCAMP も 4 月に予定。
- 次年度 WHO-FIC 年次会議
2010 年 10 月 16 日～22 日 於：カナダ（トロント）
- 諮問会議議長選挙（2010-2011）
Ms. Marjorie Greenberg と Dr. Stefanie Weber が選出。
- ポスターセッションの実施方法について意見交換

● 普及委員会 (Implementation Committee(IC))

- 現在、両議長により世界の普及状況を調査中。
- 中南米、フランス語圏、イタリア、ヨーロッパの各 ICF 普及活動の報告
- モザンビークにおける簡易疾病リストの利用の報告
- アジア・パシフィックネットワーク会議について報告
- 次年度より、WHO-FIC へ初めて参加する者は、まず、普及委員会に参加し、自分の役割とニーズを発表すること。また、全ての協力センターは、代表者を 1 名以上普及委員会に参加させ、ICD と ICF の活動状況を報告すること。

● 分類改正改訂委員会 (Updating and Revision Committee (URC))

- 2009 年は 81 件の提案があり、会議開催前に 55 件について合意が得られ、26 件が本会議で審議された。最終結果は以下の通り。

61 提案 受理

3 持ち越し

3 不支持又は取り下げ

6 ICD-11TAG へ照会

8 MRG からの情報提供

- ICF プラットフォームの準備完了の報告
- H1N1 インフルエンザについては、J09 において 3 桁分類にとどめる。
- URC メンバー以外からの改正提案は関係する TAG に照会されること。
- ICD11 改訂における URC の役割について議論

● 教育委員会 (Education Committee(EC))

- ICD、ICF の各電子トレーニングツール (WHO と教育委員会が作成) の紹介
- 死因コーダー試験の追加実施の報告
- 疾病コーダー試験の開発延期

● 電子媒体委員会 (Electronic Tools Committee (ETC))

- GTK(Classification Tool Kit)の開発状況報告、ICF への活用
- ClaML(多言語変換)の開発状況、活用の報告
- IRIS(言語に依存しない自動死因コーディングシステム)の開発状況報告

- iCAT の開発報告
- 国際分類ファミリー拡張委員会 (Family Development Committee (FDC))
 - ICHI (医療行為の分類) の開発報告 (content model への導入検討、ICF とのマッチング)
 - ICPC (プライマリケアに対する国際分類) の検討
 - 伝統医学を国際分類へ統合 (検討中)
 - SHA (System of Health Account) の紹介
- 死因分類改正グループ (Mortality Reference Group (MRG))
 - 死因分類に使用する ICD コード、死亡統計に使用する原死因選択ルール等 40 議題について検討・議論
 - Mortality Forum (MRG が運営する死因コーディングに関するオンラインフォーラム) の今後の運営・管理の検討
 - 周産期死亡、特に「超未熟児」に関連した ICD の総論等の変更 (死因コーディングルールの注意書きの見直し) の検討
 - ICD-11 改訂に向けて死亡診断書の改訂検討 (周産期死亡の情報を死亡診断書に盛り込む案の提示)
- 疾病分類グループ (Morbidity Reference Group (MbRG))
 - iCAMP の参加者からの報告
 - 改訂作業における MbRG, MRG, URC の役割の検討
 - ICD-10 第 2 巻 (日本語版第 1 巻) 総論の疾病コーディング規則の体系的検討
 - main condition (主要病態) の事例検討、フローチャートの検討
 - sequelae (続発症、後遺症) のコードに関する検討
- ターミノロジーグループ (Terminology Reference Group (TRG))
 - WHO 国際分類と SNOMED-CT とのマッピング作業報告
 - 多言語ターミノロジーのためのインフォメーションモデルに関する報告
 - ICD 改訂、ICF、伝統医学分類等とオントロジーとの結合に関するアドバイスの検討

- 生活機能分類グループ (Functioning and Disability Reference Group (FDRG))
(コーディングルール、改正、ICD との調和、評価と活用、教育、環境因子、ターミノロジーに関する 8 つのタスクグループにより構成)
 - ガイドラインの改訂作業にサービス受給資格の表の追加を検討。
 - ICF のアップデートに向けてプラットフォームの作成。
 - ウェブベースのトレーニングツールの発表。
 - IS09999 との協議に関する報告。

(2) 本会議

- 韓国の Health Information System について (プレゼンテーション)
- 円卓会議 I (ICD-11 α 版に向けて)
 - RSG のシュート議長による説明
 - iCAMP を通じてツールの実用性が改善。
 - 用語の不整合の問題、章ごとに異なる構造を採用するか等の問題
 - 少なくとも (1) α 版の具体的な形式の提示、(2) ワークフローと課題を確認、(3) TAG 以外の広範囲な対象者と情報交換をする等は実施。
 - ウースタン WHO 担当官による説明
 - Icamp において、iCAT の使用方法、コンテンツ・モデル、ワークフローなどの学習が目的で、合計 40 人 (マネージング・エディター 12 人、分類専門官 10 人、コンピューター専門家 10 人、評価専門家 8 人) で活動。
 - 今後の予定として、2010 年 5 月に α 版が完成し、1 年間のフィードバックを受け付ける。同時に β 版を作成して、誰でもテストできるようにする。その後 2 年間のフィールド・テストを実施して、2013 年 9 月に一般公開用の最終版を作成。
 - iCAMP 参加者からのコメント
- ポスターセッション 1 (ICD 及び ICF)
日本から日本病院会横堀由喜子氏 (大井利夫 ICD 専門委員代理) が発表 “Current Status of Education on Health Information Management around the World”

● ポスターセッション2（プライマリケア）

日本から藤田伸輔 ICF 専門委員が発表 “Expectation and requirement of ICD-11 for Primary Care”

● 円卓会議Ⅱ（プライマリケア）

- WONCA 代表による基調講演
- ICPC の歴史
- プライマリケアにおける伝統医学の位置づけ
- アジアパシフィックネットワーク会議における検討報告
- ICD-11 で1つのユースケースとしてプライマリケアを検討